

## 地方における大学生の公務員志望者の意識に関する検討

篠木 幹子\*・阿部 晃士\*\*・潮村 公弘\*\*\*

**要 旨** 地方の大学生は、公務員という仕事をどのように捉え、どの程度の学生が実際に公務員を希望し、公務員になるための準備をしているのだろうか。本稿では、岩手県立大学の学生に焦点をあて、学生たちが公務員に対してどのような意識をもっているのかを、調査票調査から得られたデータを基に検討する。分析の結果、公務員を希望するのは男子学生より女子学生に多く、学年が上がり実際に試験が迫ってくると、公務員を希望する学生は減少することが明らかになった。また、男女ともに公務員という進路の実現可能性の評価は低い、女子学生のほうが公務員になるために真剣に準備に取り組んでおり、女子学生にとって公務員の魅力は大きいことが明らかになった。

**キーワード** 大学生、公務員、実現可能性

### 1. はじめに

大都市圏から離れた地方の市町村で仕事を探す場合、就きたい仕事として「公務員」が挙げられる場合がしばしばある。大きな企業がそれほど多く存在しない地方では、市役所や町・村役場などは「安定した収入」があり、「地域のために仕事ができる」「不況に強い」というイメージを持ち、それが「良い職場」として捉えられるためだと考えられる。女性は、結婚や出産というライフステージの変化があったとしても、公務員であればキャリアの継続を断念しなくてもよい、というイメージを持つかもしれない。都市圏と比較すると企業がそれほど多くないという地方の現状は、公務員制度を魅力的なものにしている可能性がある。本稿ではこのようなイメージを持つ公務員に着目する。

公務員とは、「国会議員をはじめ、立法、行政、司法の各部に属する全ての職員を含み、かつ地方公共団体についても、長、議長、その他の職員の全てを含む概念であり、広く国民に代わって公務に従事する者」(人事院編、2007)である。この定

義からもわかるように、公務員は、直接従事している仕事の内容を表す職業そのものを指すわけではなく、一定の行動を要求する権利と一定の行動期待にこたえるべき義務として認知される社会的地位(富永、1979)を表す。ひとくちに公務員といっても、行政職もあれば、教育職や医療職、公安職などもあり、その内容は多様である。

公務員試験を受験するのは、主に高校生や大学生である。彼らは、就職活動の中で、企業に就職するか公務員試験を受験するかなど、将来の進路を考える。それでは、これから就職活動をする立場にある地方の大学生は、どの程度の割合の人が実際に公務員を志望しているのだろうか。また、公務員という仕事をどのように捉えているのだろうか。本稿ではこれら2つの問を設定し、大都市圏から離れた地方の大学生が公務員にかかわるキャリアをどのように考えているのかを検討する。そして、就職に直面しつつある大学生のキャリア意識の検討を通して、これまであまり焦点をあてられなかった地方の大学生の公務員に対する意識の現状を明らかにすることが、本稿の目

\* 中央大学総合政策学部 〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

\*\* 岩手県立大学総合政策学部

\*\*\* 岩手県立大学社会福祉学部

的である。具体的には、岩手県立大学の学生に焦点をあて、調査票調査から得られたデータを基に検討をおこなう。

## 2. 希望する職業に関する先行研究

公務員になるには試験がある。試験でよい成績をとり面接に合格しないと、仕事に就くことができない。そのため、必要時間数は人によって異なるであろうが、「受験勉強」が必要である。実際、そのような学生のニーズに答え、多くの大学で公務員を目指す大学生のために「公務員養成講座」が開講されている。中には、公務員養成のための民間の学校に通う人もいる。もちろん、企業に就職するにも企業が課す就職試験や面接に合格する必要があるので、「仕事に就くには関門がある」という点では公務員も企業も同じであろう。しかし、公務員試験は明確に制度化されており、一定程度の教養や専門的知識を必要とする。

先に示したように、公務員には、行政職や教育職、公安職などさまざまな種類がある。公務員の仕事の内容を「日本標準職業分類」(総務庁統計局統計基準部編、1998)の大分類の水準で分類してみよう<sup>1)</sup>。教員などの教育職は専門的・技術的職業従事者に分類され、警察官などの公安職は保安職業従事者に分類される。多くの学生が一般に希望するのは、国家あるいは地方自治体の行政職の公務員であると思われるが、この行政職の公務員は事務従事者として分類される。しかし、たとえ行政職であったとしても、一定程度の専門的知識が試験において要求される点から、行政職の公務員は専門職の公務員と類似する側面があると考えられる。

専門職を希望する若者に焦点を当てた研究をみると、高校生に焦点をあてた研究がいくつか挙げられる。専門職とは、高度の専門的水準において科学的知識を応用した技術的な仕事、および医療・教育・法律・宗教・芸術・その他の専門的性質の仕事を目指す(総務庁統計局統計基準部編、1998)。尾嶋(2001)は、高校生が将来就きたいと考えている職業を、1981年と1997年に実施した調査において尋ねた。この調査の分析から、高校

生が希望する仕事は、サービス業や技能的職業、事務職など幅広いものの、専門職を希望する高校生が非常に多いことが分析から明らかになった。また、専門職を希望する人が多いのは男女で共通しているが、職種分布の形状は性別によって異なり、女子高校生が望む職業は、天野(1980)が示した女性の「適職」(たとえば、(1) 保母や教師、看護師のように女性が歴史的に果たしてきた家族の役割の延長上にある職業、あるいは、(2) 秘書・事務員という綿密さや忍耐力といった特質で男性を補う補助的職業)の制約から逃れるまでには至っていないことも明らかになった。片瀬(2005)は、1986年、1994年、1999年に実施した調査から、専門職希望の高校生が年々増加していることを示した。さらに、専門職志向に焦点を絞ってその規定因を検討し、専門職志向は階層志向的なものではなく、自己実現を志向したものであることを析出した。

専門職と公務員は完全に一致するわけではないが、公務員の仕事のいくつかは専門職として職業分類される点と、公務員になるには専門的知識が必要である点から、本稿では、専門職に関する先行研究から得られた知見をふまえつつ、公務員希望者の特徴を描き出す<sup>2)</sup>。そして、岩手県立大学に在籍している大学生が、公務員(あるいはその他の職業)をどのように考えているのかをデータ分析をおこなうことで明らかにし、地方の大学生における公務員の意味について探索的に検討する。

## 3. 分析で使用するデータ

分析で用いるデータは、岩手県立大学学生キャリア形成研究会(代表: 岩手県立大学総合政策学部助教授(当時)・阿部晃士)が、岩手県立大学就職支援センターの支援を受けながら、2005年7月7日(木)から15日(金)にかけて実施した「大学生のキャリア形成に関する意識調査」によって得られたものである<sup>3)</sup>。調査対象者は岩手県立大学の全学部(看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部)に在籍する1～3



年生の学生と盛岡短期大学部（生活科学科、国際文化学科）に在籍する1～2年生の学生である。2005年度前期に岩手県立大学で開講されている授業科目の中から25の授業（看護学部3、社会福祉学部6、ソフトウェア情報学部6、総合政策学部5、盛岡短期大学部6）を選び、当該授業に出席している学生に授業時間中に調査票を配布し、時間内に回答してもらった調査票をその場で回収するという方法を用いて、1003名から回答を得た。

回答者の特徴は以下の通りである。性別をみると、35%が男性、65%が女性である。学部の割合をみると、看護学部の学生は21%、社会福祉学部は15%、ソフトウェア情報学部は30%、総合政策学部は19%、盛岡短期大学部は16%となっている。学年に関しては、1年生が37%、2年生が32%、3年生が31%であった。

#### 4. 岩手県立大生が望む仕事の形

##### 4.1 公務員希望者の割合

はじめに、岩手県立大学の学生がどのような形で仕事をしたいと思っているのかについて、性別ごとに検討していこう（表1）。全体的にみても、性別ごとにみても、「中小企業に勤務する」ことを望んでいる学生が多い。「大企業に勤務する」ことを希望しているのは、女性よりも男性のほうが多い<sup>4)</sup>。これに対して、「公務員になる」ことを希望しているのは、男性よりも女性のほうが多く、男性では19%、女性では26%である。「自分で事業を起こす・自営業主になる」、「フリーターやパートタイム労働者になる」という回答は少ないが、「わからない」という回答は男女共に22%ほどみられる。全体的にみると、公務員を希望する学生は4分の1を占めることが明らかになった。

表1 希望する仕事の形

	(%)		
	全体	男性	女性
大企業に勤務する	17.2	22.2	14.7
中小企業に勤務する	31.6	31.1	32.0
公務員になる	23.9	18.9	26.4
自分で事業を起こす・自営業主になる	4.9	6.0	4.2
フリーターやパートタイム労働者になる	0.2	0.0	0.3
わからない	22.2	21.9	22.3
合計	100.0	100.0	100.0
(実数)	(978)	(334)	(640)

注：性別を回答しなかった4名を欠損値としたため、男性334人と女性640人を総和した数が全体の978人とは等しくならない。

##### 4.2 学年ごとにみた公務員希望者の割合

どのような学生が公務員を希望しているのか、さらに詳しく見ていこう。ただ漠然と将来のことを考えている時期と、実際に就職活動がせまっており、その準備に追われる時期とでは、学生の考え方も異なってくると予測できる。そこで、性別ごとに学年による就職希望の違いを検討した（表2）。

男子学生についてみると、大企業勤務の希望者は、1年生では18%だが、2、3年生になる

と25%前後と多少増加する。また、学年が上がるにつれて中小企業を望む学生が増え、フリーターやパートタイム労働者を希望する学生は男子学生では1人もいない。公務員を希望する学生は学年が上になるにつれて減少している<sup>5)</sup>。公務員希望者は1年生で25%存在するが、2年生で20%、3年生では12%まで減少する。

女子学生は、学年が上がるにつれて大企業を希望する学生が増えるが、中小企業希望者の割合はほとんど変わらない。また、1～2年生の中には、

フリーターやパートタイムを望む学生がほんのわずかではあるが存在する。公務員の希望者についてみると、1年生で31%、2年生で25%、3年生で24%となっており、男子学生と同様に、学

年が上がるにつれて公務員希望者が減少するが、減少の程度は男子学生よりも小さい。

以上のことから、男子学生の場合は、学年が上がり就職活動が現実のものになるにつれて、中小

表2 学年および性別ごとにみた希望の仕事の形 (%)

	男子学生			女子学生		
	3年生	2年生	1年生	3年生	2年生	1年生
大企業に勤務する	23.6	25.8	17.7	19.5	12.0	12.4
中小企業に勤務する	40.9	26.8	25.0	30.8	34.6	31.0
公務員になる	11.8	19.6	25.0	23.6	24.9	30.5
自分で事業を起こす・自営業主になる	1.8	5.2	10.5	4.6	4.6	3.5
フリーターやパートタイム労働者になる	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4
わからない	21.8	22.7	21.8	21.5	23.5	22.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(実数)	(110)	(97)	(124)	(195)	(217)	(226)

企業を希望する人が増加するのに対して、女子学生の場合は、大企業希望者が増加する傾向がみられる（ただし、大企業希望者の割合をみると男子学生のほうが多い）。また、男女に共通した学年進行による変化として、学年が上がるにつれて公務員希望者は減少するという特徴がみられる。

#### 4.3 学部ごとにみた公務員希望者の割合

次に、学部ごとに希望の仕事の形をみてみよう。看護学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部、盛岡短期大学部では大企業勤務を希望している学生が存在するのに対して、社会福祉学部の男子学生で大企業勤務を希望する人は1人もいない（表3a）。ただし、男子学生の場合、看護学部、社会福祉学部、盛岡短期大学部の男子学生数は極端に少ないことを考慮する必要がある。社会福祉学部とソフトウェア情報学部の学生は、中小企業勤務を希望する学生が4割弱存在している。公務員希望者はどの学部にも存在するが、特に、看護学部の場合、14名中7名が公務員希望である。看護学部の公務員希望者については、看護師を養成するという学部の性

質から考えると、看護師になり国立あるいは公立の病院に勤務することを意味するものと推測でき、その他の学部の公務員希望者とは多少性質が異なる可能性がある。

女子学生についてみてみると、大企業勤務の希望者が多いのは、ソフトウェア情報学部の学生である（表3b）。また、ソフトウェア情報学部、総合政策学部、盛岡短期大学部の学生は中小企業勤務を希望する人も多い。看護学部、社会福祉学部の学生は、公務員を希望する人が多く、看護学部で40%、社会福祉学部で28%となっている。加えて、看護学部、社会福祉学部の2つの学部の女子学生は「わからない」と回答している人が他学部よりも多い。ソフトウェア情報学部の公務員希望者は12%と少ないが、総合政策学部、盛岡短期大学部の学生は20%前後が公務員を希望している。

表3a 学部ごとにみた希望の仕事の形（男子学生） (%)

	看護 学部	社会福祉 学部	ソフトウェア 情報学部	総合政策 学部	盛岡短期 大学部
大企業に勤務する	7.1	0.0	26.2	16.7	33.3
中小企業に勤務する	14.3	38.9	37.6	15.3	11.1
公務員になる	50.0	27.8	10.4	37.5	11.1
自分で事業を起こす・自営業主になる	0.0	5.6	5.4	9.7	0.0
フリーターやパートタイム労働者になる	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	28.6	27.8	20.4	20.8	44.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(実数)	(14)	(18)	(221)	(72)	(9)

表3b 学部ごとにみた希望の仕事の形（女子学生） (%)

	看護 学部	社会福祉 学部	ソフトウェア 情報学部	総合政策 学部	盛岡短期 大学部
大企業に勤務する	16.0	9.6	33.3	16.2	7.5
中小企業に勤務する	14.9	24.0	36.2	43.2	50.3
公務員になる	39.9	28.0	11.6	21.6	18.4
自分で事業を起こす・自営業主になる	2.1	4.8	5.8	5.4	4.8
フリーターやパートタイム労働者になる	0.0	0.8	1.4	0.0	0.0
わからない	27.1	32.8	11.6	13.5	19.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(実数)	(188)	(125)	(69)	(111)	(147)

以上の結果から、学部ごとにみた希望の仕事の形に特徴がみられることが明らかになった。男女ともに、看護学部は公務員になりたいと考えている学生が多い。調査票ではこれ以上は詳細に尋ねていないため推測の域を出ないが、看護師になり国立・公立の病院勤めを希望する学生が多く存在する可能性がある。これに対してソフトウェア情報学部の学生は、大企業志向が強く、公務員になることを視野に入れている人は少ない。社会福祉学部と総合政策学部では、中小企業勤務希望者と公務員希望者が多い。社会福祉学部の場合は、福祉職の公務員を考えている学生も少なからず存在していることが考えられる。盛岡短期学部は、男子学生は大企業を希望する人が多いのに対して、女子学生は中小企業を希望する人が多い。

これまでの分析を、公務員という観点から整理しよう。公務員を希望するのは、(1) 男子学生よりは女子学生であり、(2) 看護学部、社会福祉学部、総合政策学部の学生が多い。ただし、(3) 学年が上がり、実際に試験が迫ってくると、公務員を希望する学生は減少することが明らかになった。

## 5. 公務員希望と仕事に対する意識の関係

### 5.1 希望の仕事の形と公務員に対する一般的イメージとの関係

「公務員」と聞いたとき、役所は企業のように倒産の危険が無いから「公務員は安定している」とか、「公務員の仕事は定時に終了する」、「公務員は公僕だ」といったイメージを持つ人もいるかもしれない。実際に、公務員になった人は知人か



らそのようなことを言われることがしばしばあることが、法学書院編集部(1987)において示されている。

それでは、公務員を希望している岩手県立大学の学生は、仕事に安定性や定時性を望んでいるがゆえに、公務員になりたいのだろうか。それとも、そういった一般的イメージは、あまり重視していないのだろうか。そこで、(1)就職先を決めるときに安定性をどの程度重視するか、(2)就職先を決めるときに労働時間・休日・休暇をどの程度重視するか、(3)人のために尽くすことをどの程度重視するか、という質問を従属変数、希望の仕事と性別を独立変数として使用し、それぞれの質問ごとに二元配置分散分析をおこなった<sup>6)</sup>。

安定性についてみてみよう。仕事の形別を見ると、安定性の重視度には希望の仕事の形によって差があり、もっとも高いのは公務員志望者であることが明らかになった(図1、表4)。また、大企業勤務希望者が公務員に次いで安定性を重視している。しかし、性別による違いはみられなかった。

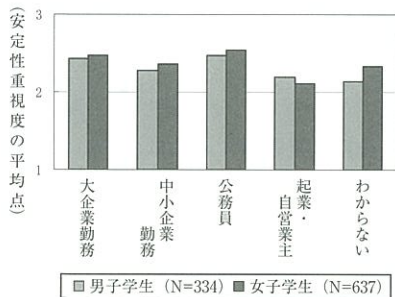


図1 希望の仕事の形と性別ごとにみた安定性の重視度

表4 希望の仕事と性別ごとにみた安定性の重視度に関する二元配置分散分析結果

	F値	有意確率
希望の仕事の形の主効果	9.84	0.02
性別の主効果	1.77	0.22
交互作用効果	0.83	0.51

労働時間・休日・休暇に関しては、希望の仕事の形と性別のどちらの主効果も5%水準で有意ではなかった(図2、表5)。ただし、女子学生は希望の仕事の形によって労働時間や休暇の重視度にわずかではあるが違いがみられ、大企業勤務希望者の重視度がもっとも高かった。

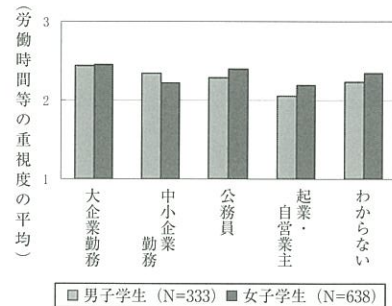


図2 希望の仕事の形別にみた労働時間・休日・休暇の重視度

表5 希望の仕事と性別ごとにみた労働時間・休日・休暇の重視度に関する二元配置分散分析結果

	F値	有意確率
希望の仕事の形の主効果	2.22	0.23
性別の主効果	0.75	0.41
交互作用効果	1.45	0.21

「人のために尽くすこと」という他者への貢献の重視度については、希望の仕事の形と性別の主効果はないが、有意水準5%で交互作用効果がみられた(図3、表6)。男子学生の場合は、公務員希望者は人のために尽くしたいと強く考えている傾向がみられるが、女子学生の場合は、希望の仕事の形による違いは明確なものではない。

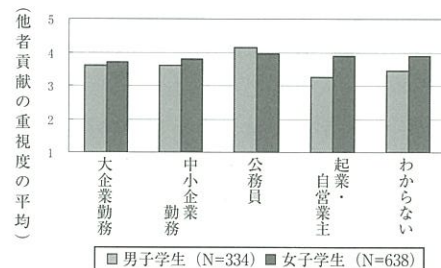


図3 希望の仕事の形別にみた他者への貢献の重視度

表6 希望の仕事と性別ごとにみた他者への貢献の重視度に関する二元配置分散分析結果

	F値	有意確率
希望の仕事の形の主効果	1.67	0.32
性別の主効果	3.37	0.13
交互作用効果	3.13	0.01

以上のことから、全体的にみると、公務員希望者は、安定性および人のために尽くすということを重視することが明らかになった。しかしながら、公務員を希望しているからといって、労働時間・休日・休暇を強く重視しているわけではないことも明らかになった。

## 5.2 希望の仕事の形と仕事に対する価値志向との関係

次に、公務員希望の背景について、仕事に対する価値志向の観点から検討していこう。荒牧(2001)は、高校生の職業選択において、(1)社会経済的条件志向、(2)他者志向、(3)自己実現の3主成分を主成分分析から抽出し、職業アスピレーション別にそれぞれの因子得点の平均を比較して、専門職希望の高校生は自己実現志向が強いことや、社会経済的志向が弱いことを示した。また、片瀬(2005)は、「高い地位につくこと」、「高い収入を得ること」、「打ち込めることをもつこと」という3つの価値志向を職業アスピレーション別に比較した。片瀬(2005)の分析結果は荒牧(2001)の分析結果と類似しており、専門職を希望する高校生は、男女どちらにおいても、「高い地位につくこと」や「高い収入を得ること」をそれほど重視しないのに対して、「打ち込めるものをもつこと」という自己実現志向を重視しており、特に専門職を希望する女子においてこの傾向が強かった。

では、公務員希望の大学生の場合はどうであろうか。ここでは、希望の仕事の形と性別を独立変数とし、「高い地位につくこと」、「高い収入を得ること」、「打ち込めることをもつこと」はどの程度重要であるかを従属変数とした二元配置分散分

析によって検討する<sup>7)</sup>。

図4は希望の仕事の形別にみた、地位の重視度(「高い地位につくこと」)の平均値を示している。分散分析の結果、希望の仕事の主効果と交互作用効果が有意水準5%でみられた(表7)。男子学生の場合、希望の仕事の形によって地位重視度には違いがみられ、大企業勤務と起業・自営業主希望の学生の地位重視度が高く、公務員の地位重視度は中程度であることがわかる。これに対して、中小企業勤務希望者やわからないと回答した学生の地位重視度は低い。女子学生の場合も希望の仕事の形による地位重視度の違いがみられ、また、全体的に男子学生よりも地位重視度は低かった。その中で、大企業勤務希望者の地位重視度がもっとも高く、起業・自営業主、公務員、わからない、中小企業勤務希望者の順で地位が重視されることから、女子の場合も公務員の地位重視度は中程度であることが明らかになった。

以上のことから、男子学生のほうが女子学生よりも全体的に地位を重視するが、希望の仕事の形別にみると、公務員希望者はとくに地位を強く重視するわけではないということがわかった。

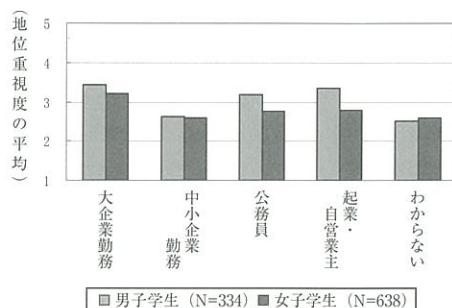


図4 希望の仕事の形別にみた地位の重視度

表7 希望の仕事と性別ごとにみた地位の重視度に関する二元配置分散分析結果

	F値	有意確率
希望の仕事の形の主効果	7.66	0.04
性別の主効果	3.83	0.10
交互作用効果	2.23	0.06



次に収入重視度（「高い収入を得ること」）についてみていこう。希望の仕事の形の主効果がわずかにみられる（図5、表8）。男子学生の場合、地位の重視度と同様に、大企業勤務と起業・自営業希望者の重視度が高く、公務員の収入重視度は中程度である。女子学生の場合、大企業勤務希望者の収入の重視度がもっとも高く、公務員、中小企業勤務希望者がそれに続く。また、分析結果からはわずかな交互作用効果がみられることから、女子学生の場合、公務員希望者の収入重視度は多少高いと解釈できる。

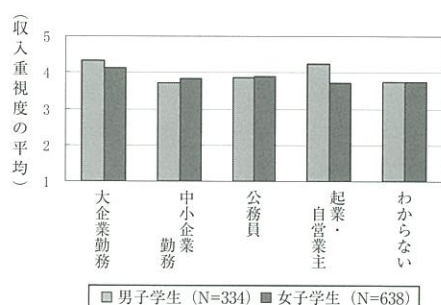


図5 希望の仕事の形別にみた収入の重視度

表8 希望の仕事と性別ごとにみた収入の重視度に関する二元配置分散分析結果

	F値	有意確率
希望の仕事の形の主効果	4.65	0.08
性別の主効果	1.78	0.23
交互作用効果	1.94	0.10

それでは、自己実現重視度（「打ち込めるものをもつこと」）についてはどうであろうか。分析の結果、希望の仕事の形と性別の交互作用効果のみが5%水準でみられた（図6、表9）。男子学生の場合、公務員希望者の自己実現重視度が他の仕事と比較すると若干高くなっている。これに対して女子学生の場合は、起業・自営業主の自己実現重視度が高く、公務員希望者の自己実現重視度は低い傾向がみられた。

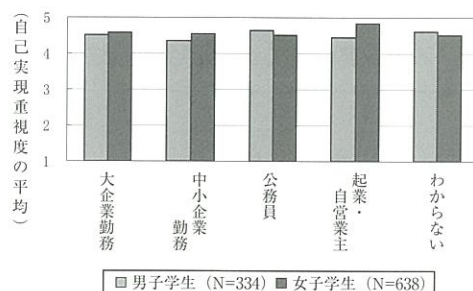


図6 希望の仕事の形別にみた自己実現重視度

表9 希望の仕事と性別ごとにみた自己実現の重視度に関する二元配置分散分析結果

	F値	有意確率
希望の仕事の形の主効果	0.62	0.67
性別の主効果	1.04	0.35
交互作用効果	2.89	0.02

以上の分析結果をまとめると、公務員希望者の地位重視度はそれほど強くないことが明らかになった。収入重視度については、男子学生の公務員希望者はそれほど重視しないが、女子学生の場合は多少重視する。また、男子学生の公務員希望者は、若干自己実現を重視する傾向がみられるが、女子学生の公務員希望者は他の仕事と比較した場合、自己実現の重視度に大きな違いはみられなかった。

これらの分析結果から、大学の男子学生の公務員希望者に関しては、高校生の専門職希望者に関する先行研究の分析結果と傾向がほぼ一致することから、両者の職業希望のメカニズムは類似している可能性が考えられる。しかし、大学的女子学生の場合は、高校生の専門職希望者と大学生の公務員希望者の職業希望のメカニズムは異なっているものと考えられる。

### 5.3 希望の仕事の形と将来の進路

調査票では、(1) 進路をどの程度真剣に考えているか（「すでに真剣に考えている」「そろそろ考えなければと思う」「まだ先の問題だと思う」「まったく実感が無い」）ということと、(2) 進路の実現可能性がどの程度あると思うか（「今のままで充分可能だと思う」「少し努力すれば可能



だと思う」「可能だがかなり困難だと思う」「かなり困難だと思う」あるいは「わからない」という質問をした。本稿では、それぞれの回答に4点から1点を付与し、希望の仕事の形とどのような関連が見られるかを検討する<sup>8)</sup>。

図7aは、男子学生の希望の仕事の形ごとに、進路に対する考え方の真剣度と、進路の実現可能性の関連を示したものである。それぞれをみると、大企業や中小企業勤務希望者は進路に対する考え方が真剣であり、かつ自分の進路の実現可能性を高く評価している。これに対して、起業・自営業希望者は進路を非常に真剣に考えているが、その実現可能性の評価は非常に低くなっている。公務員希望者の進路に対する真剣度は低い。また、その実現可能性は、起業・自営業希望者ほど低くないが、大企業や中小企業希望者ほど高くもない。

女子学生の場合（図7b）、まず、進路に対する考え方の真剣度、進路の実現可能性のいずれもが、男子学生に比べてかなり高いことが指摘できる。また、女子学生同士の比較では、中小企業勤務希望者は進路に対してそれほど真剣に考えているわけではないが、自分の進路の実現可能性は高く評価している。大企業勤務希望者は、他の職業を希望する人と比較すると進路を真剣に考えているわけではなく、実現可能性の評価も中程度である。これに対して、公務員および起業・自営業希望者は、進路を非常に真剣に考えているが、その実現可能性の評価は低くなっている。特に公務員希望者は、進路に対してもっとも真剣に考えているのに、その実現可能性の評価がもっとも低い。

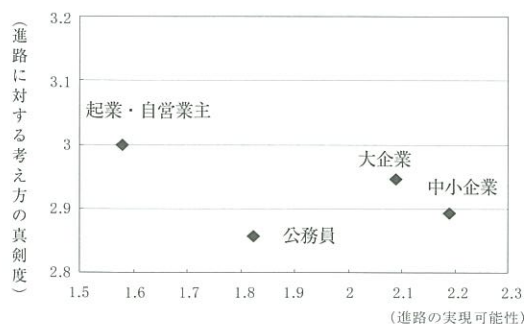


図7a 進路の実現可能性と進路に対する考え方の真剣度（男子学生）

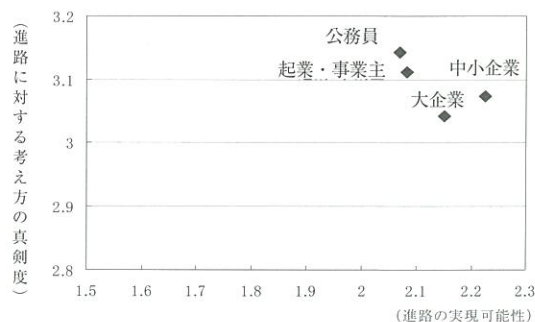


図7b 進路の実現可能性と進路に対する考え方の真剣度（女子学生）

以上の分析結果をみると、公務員希望者は男女ともに進路の実現可能性の評価は低くなっている。ただし、女子学生の公務員希望者の進路の実現可能性に関する平均点は他の仕事の希望者と比較すると相対的に低くなっているが、平均点そのものは男子学生よりも高い。また、性別によって進路に対する考え方の真剣度は異なっている。男子学生の場合、公務員希望者は、それほど真剣に公務員になることを考えているわけではない。それゆえ、実現可能性も「よくわからない」ためにある程度低くなっていると解釈できる。しかし、女性の場合は非常に真剣に公務員になりたいと考えており、公務員になることの大変さや厳しさを理解しているがゆえに、他の職業と比べるとその実現可能性を低く評価している可能性がある。ただし、女子学生を対象とした分析の場合、公務員の意味合いが他の学部とは異なる看護学部と、実際に就職活動をしている学生がいる盛岡短期大学部（両学部ともほとんどが女子学生）の影響が強く出ている可能性もある。そこで、特徴を明確に検討するために、ソフトウェア情報学部と総合政策学部の2学部を対象に同様の分析をおこなった。分析の結果、ソフトウェア情報学部と総合政策学部の男子学生の分析結果は7aとほぼ同じになった。女子学生の場合は、公務員希望者の真剣度は図7bと同様にもっとも高かったものの、進路の実現可能性については、中小企業の実現可能性がもっとも高く評価されており、公務員、大企業、起業・事業主という順番で実現可能性が評価

されていた。しかし、得点の値そのものは、女子全体で分析したときと比較すると、ソフトウェア情報学部と総合政策学部的女子学生の公務員志望者の実現可能性の平均点は低くなっていた。以上のことから、ソフトウェア情報学部と総合政策学部だけで男女を比較してみた場合でも、男子学生は公務員になることを真剣に考えておらず実現可能性の見積もりも低い、女子学生は将来を非常に真剣に考えており状況をよく理解しているために、実現可能性を低く考えている可能性があるといえるだろう。

公務員を希望している人が、どのくらい真剣にそのことを考えているのか、別の角度から検討していこう。「公務員試験（国家・地方）に関する情報を知りたい」と思っている人は全体でみると66%（657人）、「就職のために個人的に勉強している」人は26%（260人）となっている。ここでは、この2つの質問を用い、希望の仕事の形によって、公務員試験に関する情報を得たいと思ったり、個人的に勉強している人の割合がどのように異なるのかを検討した（図8、図9）。

図8は、希望の仕事の形別に、公務員試験（国家・地方）の情報が知りたい人の割合を示している<sup>9)</sup>。当然の結果といえば当然なのであるが、性別に関係なく、公務員を希望している人は他の仕事の形を希望している人よりも公務員試験の情報を知っていたがっていることがわかる。ただし、女性の公務員希望者のほうが、男性よりも高い割合の学生が情報の入手を望んでいることが明らかになった。

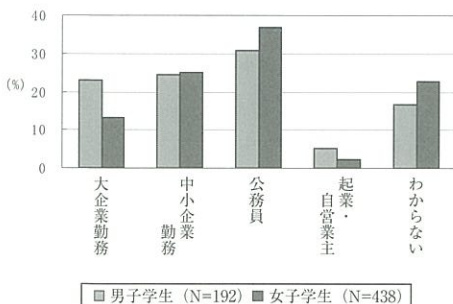


図8 希望の仕事の形別にみた公務員試験（国家・地方）情報が知りたい人の割合

また、自分の将来のために現在取り組んでいることの中で、就職のために個人的に勉強している人の割合を、希望の仕事の形別に示したのが図9である<sup>10)</sup>。これをみると、大企業勤務希望者と起業・自営業主希望者については、男性のほうが個人的に勉強している人が多いが、中小企業と公務員に関しては、女性のほうが個人的に勉強している人が多いことが明らかになった。

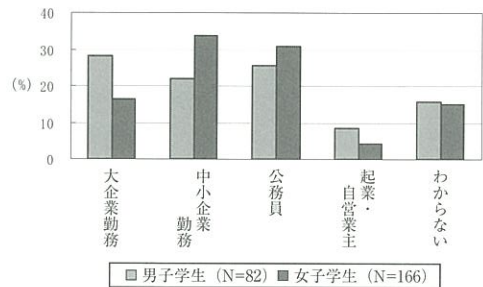


図9 希望の仕事の形別にみた個人的勉強をしている人の割合

以上のことから、女性のほうが、公務員のための情報の入手に積極的であり、就職のために現在個人的に勉強をすすめている人が多いことが明らかになった。

## 6. まとめ

本稿では、公務員を希望する大学生の特徴や仕事に対する意識について検討してきた。分析の結果、明らかになった点を整理しよう。

公務員を希望するのは、男子学生よりは女子学生に多い。学年が上がり、実際に試験が迫ってくると、公務員を希望する学生は減少する。公務員希望者は、安定性や人のために尽くすといったことを重視するが、労働時間・休日・休暇はそれほど重視しない。男子学生の公務員希望者は収入をそれほど重視しないが、女子学生の場合は多少重視する。また、男子の公務員希望者は、自己実現を重視する傾向がみられるが、女子の公務員希望者は自己実現を重視しない。また、男女ともに公務員という進路の実現可能性の評価は低い。しかし、男子学生の場合、公務員希望者は、それほど真剣



に公務員になることを考えているわけではなく、実現可能性も「よくわからない」ためにそれほど低く評価していないと考えられるが、女子学生の場合は、真剣に公務員になりたいと考え、公務員になることの大変さや厳しさを理解しているがゆえに、実現可能性を低く評価している可能性が高く、公務員のための情報の入手に積極的であり、現在個人的に勉強をしている人が多い。

これらの分析結果から、岩手県立大学のような地方の大学では、女性の公務員希望者が多く、女性ほど公務員になるために真剣に取り組んでいることが明らかになった。女子学生の場合、中小企業に勤めたいと考える学生が多いことは事実だが、高いハードルを越えれば安定して働ける公務員を目指す学生もそれなりに存在することから、地方の大学では、男子学生よりも女子学生にとって、公務員の魅力は大きいと考えられる。実際に、女子学生の中で結婚後に仕事を続けたいと思っているかどうかを希望の仕事別にみると、公務員希望者45%で最も多かった（図は省略）。

今回の分析では、公務員を将来の仕事として選択するメカニズムを今後検討するための土台となる基礎的な分析をおこなった。そこから明らかになったのは、女子学生と男子学生では仕事を選択するメカニズムが異なっているという予想である。しかし、調査票の制約から、公務員の志望を決定づける決定的な要因は明らかにはできなかった。

今後の課題としては、次の3つが挙げられる。第1の課題は、仕事を選択するメカニズムを示すための具体的なモデルを構築し、性別によってそのメカニズムが異なるかどうかを検討することである。第2の課題は、公務員に対する考え方を中心テーマに据えた新たな調査を実施し、学生の公務員に対するイメージや、仕事を決定する際の個人の制約（地元に戻らなくてはならないなど）などを含めた、詳細な分析をおこなうことである。第3の課題は、国の公務員志望者の変動と都市圏における学生との比較をおこなうことで、都市圏から離れた地方の大学生にとっての理想の仕事の

形や仕事の意味などを検討することである。これらの分析を通じて、就職を控えた大学生にとって公務員の意味を明らかにすることが可能になると考えられる。

#### 【注】

- 1) 日本標準職業分類では、職業分類は「大分類」、「中分類」、「小分類」の3水準で分けられる（総務庁統計局統計基準部編、1998；安田・原、1960）。大分類の分類項目は、(A) 専門的・技術的職業従事者、(B) 管理的職業従事者、(C) 事務従事者、(D) 販売従事者、(E) サービス職業従事者、(F) 保安職業従事者、(G) 農林漁業作業者、(H) 運輸・通信従事者、(I) 生産工程・労務作業者、(J) 分類不能の職業となっている。中分類、小分類になるに従い、分類が詳細になる。
- 2) 先行研究では高校生を研究対象としている。調査対象の高校生の中には大学進学希望者も多く存在することから、「就職はまだまだ先のことであり」と感じている高校生は大学生と比較すると多いだろう。これに対して大学生の場合、就職はより身近で真剣に考えなくてはならないものになっていると考えられる。その意味で、本稿の分析結果は、就職やキャリアに関する現実味を帯びた大学生の意識を反映すると考えられる。
- 3) 本調査は、岩手県立大学学生キャリア形成研究会が実施した学生のキャリアに関する第2次調査として位置づけられる。第1次調査は、2002年に岩手県立大学学生キャリア形成研究会（代表：岩手県立大学・阿部見士）が実施した「大学生のキャリア形成に関する意識調査」である。また、2005年に実施した第2次調査に関しては、宮城県にある東北学院大学でも、同じ調査票を用いて同時期に調査が実施された。
- 4) 調査票では、どのような企業が大企業（あるいは中小企業）であるのかという定義は示しておらず、名辞のみを示した。
- 5) ここでは学年による影響を、減少あるいは増加といった変化として解釈しているが、この効果を厳密に検証するには、パネルデータで分析しなければならない。
- 6) (1) 安定性と (2) 労働時間・休日・休暇に関しては、「非常に重視」と回答した人に3点、「重視」に2点、「重視しない」に1点を付与した。また、(3) 人のために尽くすことに関しては、「かなり重要である」に5点、「まあ重要である」に4点、「どちらともいえない」に3点、「あまり重要ではない」に2点、「まったく重要でない」に1点を付与した。

- 7) 「高い地位につくこと」「高い収入を得ること」「打ち込めることをもつこと」「のんびり暮らすこと」「人のために尽くすこと」のそれぞれの項目に対して、「かなり重要である」と回答した人に5点、「まあ重要である」に4点、「どちらとも言えない」に3点、「あまり重要ではない」に2点、「全く重要でない」に1点を付与し、希望の仕事別に各項目の平均点を比較した。また、女子学生の中でフリーター・パートタイム労働者を希望した2名は欠損値とした。
- 8) (1) 進路をどの程度真剣に考えているかについては、「すでに真剣に考えている」に4点、「そろそろ考えなければと思う」に3点、「まだ先の問題だと思う」に2点、「まったく実感が無い」に1点を付与した。また、(2) 進路の実現可能性がどの程度あると思うかについては、「今のままで充分可能だと思う」に4点、「少し努力すれば可能だと思う」に3点、「可能だがかなり困難だと思う」に2点、「かなり困難だと思う」に1点を付与し、「わからない」は欠損値とした。
- 9) 大学の就職支援について要望したり期待することは何かについて項目ごとに尋ね、「公務員試験(国家・地方)に関する情報を知りたい」ということについて「期待したい」と回答した人の割合を示している。
- 10) 自分の将来のために現在取り組んでいることがあるかを尋ね、「就職のために個人的に勉強する」という項目に対して「取り組んでいる」と回答した人の割合を示している。

—平成9年12月改訂』全国統計協会連合会。

富永健一編、1979、『日本の階層構造』東京大学出版会。  
安田三郎・原純輔、1960、『社会調査ハンドブック』有斐閣双書。

(2008年11月18日原稿提出)

(2009年2月16日受理)

## 【引用文献】

- 天野正子、1980、『女性にとっての青年期とその進路選択』山村健・天野郁夫編『青年期の進路選択—高学歴時代の自立の条件』有斐閣、pp.130-156。
- 荒牧草平、2001、『高校生にとっての職業希望』尾嶋史章編『現代高校生の計量分析』ミネルヴァ書房、pp.81-106。
- 法学書院編集部、1987、『公務員への道』法学書院。
- 岩手県立大学学生キャリア形成研究会、2003、『大学生のキャリア形成に関する意識調査報告書』(2003年1月刊行)。
- 人事院編、2007、『公務員白書(平成19年版)』大蔵省印刷局。
- 片瀬一男、2005、『夢の行方—高校生の教育・職業アスピレーションの変容』東北大学出版会。
- 尾嶋史章、2001、『進路選択はどのように変わったのか—16年間にみる進路選択意識の変化』尾嶋史章編『現代高校生の計量分析』ミネルヴァ書房、pp.21-61。
- 総務庁統計局統計基準部編、1998、『日本標準職業分類



## A Study of the Background to Civil Service Career Options for Regional Undergraduate Students

Mikiko SHINOKI, Koji ABE, and Kimihiro SHIOMURA

**Abstract** We explore what regional undergraduate students think about civil service work. We also explore how many undergraduate students have the motivation to become civil servants and study for civil service examinations. The purpose of this paper is to examine consciousness regarding careers in the civil service based on data from our questionnaire survey conducted in Iwate Prefectural University. It was shown that the proportion of female students who want to be civil servants is higher than that of male students. In addition, as students progress through the academic years, the proportion who want to be civil servants decreases. In addition, our analyses showed that male students' evaluation of the civil service as a viable career option is as low as female students'. However, female students are studying harder to become civil servants than male students. It is thought that female students are attracted to the civil service career.

**Key words** undergraduate student, civil servant, viable career option